

文芸コーナー

菊水短歌会

喧噪の世の中なれどもみじ葉は
赤々として道の辺は冬
初霜に土の重さを感じつつ
花の種蒔く心にも蒔く
海底の坑つるはし担ぎ黒ダイヤ
世界遺産の三池炭坑
雨さえも吾にやさしく降りかかる
非日常の旅にありては
御来光の線をひくごとさざ波に
乗りて寄せる黄金の光
わが娘見知らぬ土地へ嫁ぎゆき
便りないのは元気なことと

野中 慶子
石山 幸子
阪野 章子
池田 恭子
河野 洋子
坂本やすみ

かなしき原俳句会

四世代集いて餅を搗きにけり
寒風に聞く人生の応援歌
拘りの米を求めて冬耕す
青空へ羽ばたく如く枯尾花
屠蘇を酌む鴨居をくぐり来る子に

誠 一
良 一
謙 三
貞 子

菊水俳句会

雲低く山茶花の白際立ちて
眼の見えぬ叔母に晴れ着を見せに来る
しのこしも思いのこしも年を越す
つつがなく九十三歳屠蘇を汲む
おだやかな朝を雑煮で迎へけり
在るもののみな影つくり暮早し

永田 紘彦
原 かよ子
池田 松子
中山ミサト
宮中 ミスエ
宮中 康雄

初電話友と行く旅決まりけり
受話器より快癒の御慶受けにけり
元氣こそ子らへの土産寒卵
全集の一冊抜きて冬籠

しん子
淑 乃
康 子
弘 子

肥後狂句

今年どまあ 毎年誓う同じこつ
今年どまあ 和服まといて初詣
寒かなあ 受験日まで気が抜けん
寒かなあ 新聞受の遠かこつ
寒かなあ 財布の中も空っぽす
寒かなあ 今日どみや 家に居りゃよかて
ほんによか ずっと正月だったらネ
ほんによか 嫁は気さくで気のきいち
ほんによか 子が孝行もしてくれる

高木せいや
後藤 撫子
石原かわせみ
庄山 道草
井上りんどう
池田 茜
二瀬 桔梗
福永すみれ
瀬上 歌子

人権の窓 21

地域人権教育指導員 緒方正雄

中央公民館 086・20202

「刑を終えて出所した人の人権」

昨年八月、和水・南関ブロック人権・同和教育研究会が三加和公民館で開催されました。社会教育分科会では、刑を終えて出所した人の自立準備ホーム「NPO法人オリーブの家」の理事長をされている青木さんや事務局の方々を招き、講演を聞きました。
初めに、青木さんから、自分の生い立ちと「オリーブの家」を開設した思いを話されました。
青木さんは一九四八年生まれです。小学校五年生の時、父親から急に「この人がお前のお母さんだ」と実母や妹を紹介され、それまで母親と思っていた人と別れることになり、身勝手な大人への反発から中学校時代は荒れまくり、少年鑑別所や少年院を出たり入ったりしました。それでも高校受験では精一杯張り、難関校への合格を喜んで矢先、杯頑た父親から「お前にはお金を使ったんだぞ」と裏口入学の話を開かされた青木さんは、深く傷つき、高校を辞め、一八歳からはヤクザの世界に身を置き、刑務所も三回入所するなど、人生の半分を施設で暮らしてきました。
そして刑務所の中で命を狙われ、刑務所内の病院に入院した時に聖書と出会い、人生で初めて心に安らぎを感じました。五二歳の春のことでした。毎日死と向き合っていた青木さんはむさぼるように聖書を読み、五八歳の時、熊本の本刑務所内で教師から洗礼を受け、六三歳で刑務所を出所しました。
その翌年、シンガポールの聖書学校へ入学し、元受刑者の更生施設を何度も訪問しました。シンガポールの更生施設は国の援助もあ

り、とても充実していて、元受刑者たちの立ち直る姿に感動していました。
青木さんは、日本では出所後の帰住先や仕事もなく、再犯を繰り返さざるを得ない現実をよく知っていました。どんな人でも社会の中で最期を迎えさせたい。そのためには、元受刑者の立ち直りのための受け皿を作りたいと、二〇一四年、六六歳の時に「オリーブの家」を立ち上げられました。「どんな過去を持つ人でもこれからが大事です。半年間の間に、仕事や住む家を探す手伝いをします。一日一つずつ覚え、前に歩きます。毎日交換日記をして、徐々に心を開いてもらいます。三年間で五〇名のファミリーが巣立っています。しました。どんな人でも変われるんです。手を差しのべていきたいです。」と結ばれました。
次に、事務局の小原さんは、「寄り添ってくれる人がいたら、人は必ず変われます。」と付け加えられ、続けて井さんは、「心を開かなかった一九歳の青年は、母親が六度も再婚を繰り返し、最後には母親からも捨てられていました。」と、その子を理解するには、その子の背景を理解することが大切だと補足されました。
この分科会で学んだことは、刑を終えて出所した人に対しての根強い偏見や差別意識があり、本人に更生の意欲があっても社会に受け入れられず、再び罪を犯してしまう現実でした。そして何度も繰り返されたのが、「人は必ず変わる」ということと、そのためには「寄り添う人が必要」であることでした。私たちにできることは、刑を終えて出所した人が社会の一員として生活できるように、更生の意欲を理解し、偏見や差別を無くしていくことであると思いました。

図書室 本紹介

中央公民館 図書室より



2月22日は、「世界友情の日」です。
1963年、ボイスカウト世界会議で制定され、1965年から実施されています。ボイスカウト・ガールスカウトの創始者ヘーデン・パウエル卿の誕生日にちなんでいます。
ここで紹介した以外にも、友情・友だち・絆をテーマにした本を取り揃えていますので、ぜひ図書室にお越しください。

『夜のピクニック』

恩田 陸著／新潮社



朝の8時から、翌朝の8時までの24時間で80kmを歩く、年に一度の伝統行事「歩行祭」。高校3年の甲田貴子は、この高校生活最後の一大イベントにある賭けをしていました。それは、貴子がずっと秘めてきた気持ちを整理するためのものでした。多彩な登場人物の、様々な挿話の一つひとつから、人間の持つ優しさや寛大さや友情の本質などを探り当てることのできる本です。

『ずっと ずっと だいすきだよ』

ハンス・ウィルヘルム著／傑評論社



「ぼく」は、飼いだのエルフィーと一緒に大きくなっていきます。時が経ち、やがてお別れのときがやってきます...
普段、とても身近にいて、存在自体が当たり前になってしまっている自分の大切な人やペット、愛する相手に対する感謝の気持ち、愛情や友情を再確認できる絵本です。大切な人に「ずっと、だいすきだよ。ありがとう。」って、伝えてますか？

『けんかのきもち』

柴田 愛子著／傑ポプラ社



これは、子どもたちのあそびば「あそび島」のお話です。「あそび島」には先生がいて、たくさん子どもたちが遊んでいます。その一人、たいは、大の仲良しのこうたと、ある日すっこいけんかをします。こうたがあやまってくれたけど、まだけんかの気持ちは終わらなくて、子どもであればあるほど、けんかは大切で、むしろけんかができる相手がいることは幸せなこと

なごみだっでんクラブ2月スケジュール

種目	ヨガ		ベタンク		手話	ソフトテニス	剣道	サッカー（中学生）			ジュニアサッカー		ジュニアソフト	ミニバスケ	
曜日	火曜	金曜	木曜	土曜	第2・4火曜	土曜	木曜	水曜	金曜	土曜	水曜	木曜日	日曜	水曜	木曜
時間	20:00	10:00	19:00	19:00	20:00	20:00	19:00	19:00	19:00	未定	18:00	18:00	9:00	19:00	19:00
場所	中公	スカイドーム	三加和G	総合G	スカイドーム談話室	テニスコート	町体育館	三加和G	三加和G	三加和G	三加和G	三加和G	春富G	和水町体育館	和水町体育館

※天候や指導者の都合等によりスケジュールが変更になる場合があります。変更が生じた場合は、各種目の指導者から連絡があります。

問い合わせ先 三加和公民館内 なごみだっでんクラブ事務局 ☎0968・34・3047